

萬葉集略解

四上

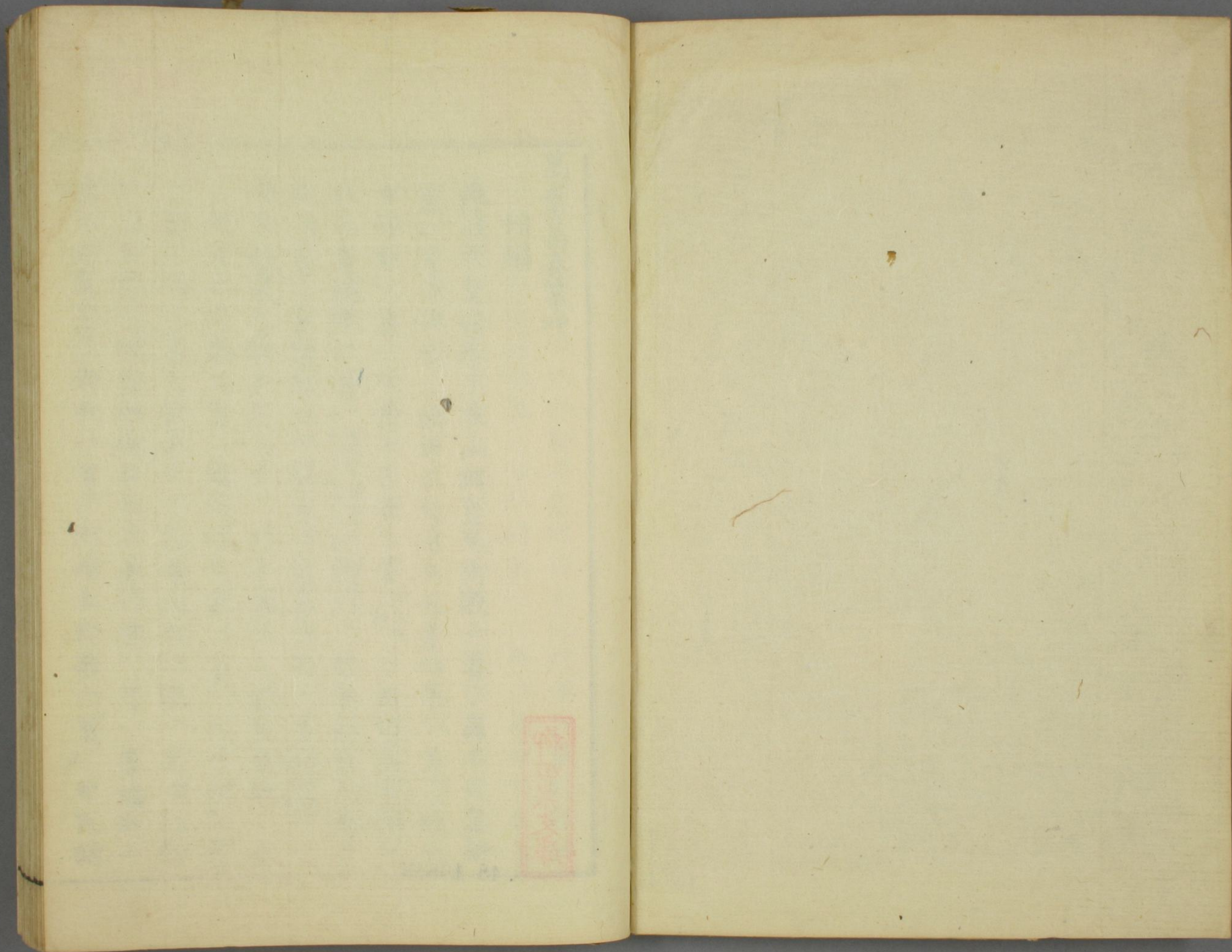
柳田文庫

文庫11

A 104

7





文庫11
A 104
7



萬葉集卷第四

相聞

難波天皇妹奉上山跡皇兄御歌一首○崗本天皇御
 製一首并短歌○額田王思邈江天皇作歌一首○鏡王
 女作歌一首○吹黃刀自歌二首刀をカ○田部忌寸標子
 任太宰時歌四首太宰の事の時を授せり
 本文よりをうらひ思てちの○柿本朝臣人麻呂
 歌四首○基檀越往伊勢國時留妻作歌一首基本文より
 基子能る○
 柿本朝臣人麻呂歌三首○柿本朝臣人麻呂妻歌一首
 ○阿部女郎歌二首○駿河嫁女歌一首○三方沙弥歌
 一首○丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌
 ○幸伊勢國時當麻呂大夫妻作歌一首○草孃歌一
 首○志貴皇子御歌一首○阿倍女郎歌一首○中臣朝



臣東人贈阿倍女郎歌一首 阿倍女郎報贈歌一首報
と一本音 ○大納言兼大將軍大伴卿歌一首 ○石川郎女
歌一首 ○大伴女郎歌一首 後人追同歌一首同本文の一
○藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌一首 ○京
職大夫藤原麻呂大夫贈大伴郎女歌三首藤と草と伴上 ○大
伴郎女和歌四首 ○大伴坂上郎女歌一首大上本文 ○天皇賜海
上女王御歌一首 海上女王奉和歌一首 ○大伴宿奈
麻呂宿祢歌二首歌字 ○安貴王戀歌一首 并短歌今文迄 ○
門部王戀歌一首一その ○高田女王贈金城王歌六首 ○神
龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈後駕人所詠娘
子笠朝臣金村作歌一首 并短歌 ○二年乙丑春三月幸
三香原離宮之時得娘子笠朝臣金村作歌一首 并短歌

七取 五年戊辰太宰少貳石川朝臣足人遷任餞于筑
前國蘆城驛家歌三首 ○大伴宿祢三依歌一首 ○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌二首 ○太宰帥大伴卿贈大貳
丹比縣守卿遷任民部卿歌一首一首の ○賀茂女王贈大
伴宿祢三依歌一首 ○土師宿祢水道後筑紫上京海路
作歌二首 ○太宰大監大伴宿祢百代戀歌四首 ○大伴
坂上郎女歌二首 ○賀茂女王歌一首 ○太宰大監大伴
宿祢百代等贈驛使歌二首 ○太宰帥大伴卿被任大納
言臨入京之時府官人等餞卿于筑前國蘆城驛家歌四首
○太宰帥大伴卿上京之後蒲誓沙弉贈卿歌二首 大
納言大伴卿和歌二首 ○太宰帥大伴卿上京之後筑後
守葛井大成連悲歎作歌一首 ○大納言大伴卿新袍贈

攝津大夫高安王歌一首○大伴宿祢三依悲別歌一首
○金明軍與大伴宿祢家持歌二首○大伴坂上家之大
嬢報贈大伴宿祢家持歌四首○大伴坂上郎女歌一首
○大伴宿祢稻公贈田村大嬢歌一首○笠女郎贈大伴
宿祢家持歌二十四首 大伴宿祢家持和歌二首○山
口女王贈大伴宿祢家持歌五首○大神女郎贈大伴宿
祢家持歌一首○大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌○
西海道節度使判官佐伯宿祢東人妻贈夫君歌一首
佐伯宿祢東人和歌一首一首の
字と短○池邊王宴誦歌一首一首の
字と短
天皇思酒人女王御製一首本文製の
歌の字と○高安王累
鮎贈娘子歌一首○八代女王獻天皇歌一首○娘子
報贈佐伯宿祢赤麻呂歌一首 佐伯宿祢赤麻呂歌一

首本文歌字
上和の字と○大伴四網宴席歌一首○佐伯宿祢赤麻呂
歌一首○湯原王贈娘子歌二首 娘子報贈歌二首
湯原王亦贈歌二首 娘子復報歌一首本文報の
字の字と 湯原
王亦贈歌一首 娘子復報贈歌一首 湯原王亦贈歌
一首亦と入
二短 娘子復報贈歌一首○湯原王歌一首○紀
女郎怨恨歌三首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴
坂上郎女歌一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴
坂上郎女歌一首○大伴宿祢三依離復相歡歌一首○
大伴坂上郎女歌二首○大伴宿祢駿河麻呂歌三首○
大伴坂上郎女歌六首○市原王歌一首○安都宿祢年
之歌一首之歌字と脱本
文之と見ま化○大伴宿祢像見歌一首宿祢の
字と短○安
倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上郎女歌二首○厚見

王歌一首○春日王歌一首○湯原王歌一首 和歌一
首 不審作者○安倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上
郎女歌二首○中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首○大
伴宿禰家持與交遊別久歌三首本文久○大伴坂上郎女
歌七首○大伴宿禰三依悲別歌一首○大伴宿禰家持
贈娘子歌二首○大伴宿禰千室歌一首 未詳○廣河
女王歌二首王字下七二
の字を八變○石川朝臣廣成歌一首○大伴宿
禰像見歌三首○大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首
○河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首○巫部麻蘇
娘子歌二首○大伴宿禰家持贈童女歌一首 童女和
贈大伴宿禰家持來報歌一首本文和より持
まて八字先○粟田娘子贈
大伴宿禰家持歌二首○豐前国娘子大宅女歌一首○

安都麻娘孺子歌一首○丹波大女娘孺子歌三首○大伴宿
禰家持贈娘子歌七首○獻天皇歌一首○大伴宿禰家
持歌一首○大伴坂上郎女從跡見莊贈賜留宅女子大
嬢歌一首并短歌○獻天皇歌二首○大伴宿禰家持贈
坂上家大嬢歌二首 大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持
歌三首 又大伴宿禰家持和歌三首 同坂上大嬢贈
家持歌一首 又家持和坂上大嬢歌一首 同大嬢贈
家持歌二首 又家持和坂上大嬢歌二首 更大伴宿
禰家持贈坂上大嬢歌十五首○大伴田村家之大嬢贈
妹坂上大嬢歌四首妹と姉
又誤○大伴坂上郎女從竹田莊贈
賜女子大嬢歌二首○紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首
大伴宿禰家持和歌一首○在久邇京思留寧樂宅坂

上大嬢大伴宿祢家持作歌一首 宅の下舊京二字を文とせむればハ
除る化歌の下一首の字を従
 藤原郎女聞之即和歌一首○大伴宿祢家持更贈大嬢
 歌二首○大伴宿祢家持報贈紀女郎歌一首○大伴宿
 祢家持後久通京贈坂上大嬢歌五首○大伴宿祢家持
 贈紀女郎歌一首○紀女郎報贈家持歌一首○大伴宿
 祢家持更贈紀女郎歌五首○紀女郎報贈友歌一首○
 大伴宿祢家持贈娘子歌三首○大伴宿祢家持報贈藤
 原朝臣久須麻呂歌三首 三首二
又家持贈藤原朝臣久
 須麻呂歌二首○藤原朝臣久須麻呂來報歌二首

相聞

難波天皇妹奉^{ニホノミカド}上在山跡皇兄^{ノミヤノミコ}御歌一首 妹の上をの字を

一ト天皇ハ仁徳天皇也命子十人皇女九人おとよませばハつれヤ
 さいちしんくもあしき、宮見ハも宮子の法中セ

一日社人母待告長氣乎如此所待者有不得勝

いとこころひしきまらつげなまきけをがくまゝるればあつがてなくも
 つかハ継こころく結ぶくまゝ、ちまこまハ月日久しく外とつよ、まごつるま
 ハはちかろきく、室長ハ所ハ耳の語まゝ、かくのみまてむとわい、まらふと

いづり

岳本天皇御製一首并短歌 製の下歌の字と落せ

神代從 生繼來者 人多 國爾波滿而 味村乃
 かみよるもあれつぎとれびとをばあくらあゝみちるあぢむらの

いさよはらばさきまらハ乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの
名をわづらひて女の情をいさよとていふもよきなりまの健徳にいひて
いさよはらばさきまらハ乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの

右今案高市岳本宮後岡本宮二代二帝各有異焉但
備岡本天皇未審其指 ほんのちかへし

額田王思近江天皇作歌一首 天智ハ天智天皇也額田王ハ

天智天皇ハ天智天皇也額田王ハ
をわけあへるも一のちかへし

君待登吾戀居者我屋戸之簾動之秋風吹

きままつとわのこいをればわのやまのまはらうとわのあまのがせはく
ちんりうみれが巻の風も動くもあまのまはらうとわのあまのがせはく
まはらうみれが巻の風も動くもあまのまはらうとわのあまのがせはく

鏡王女作歌一首

天武紀ハ天皇初娶鏡王女 鏡王女ハ
鏡王女ハ天武天皇初娶鏡王女

額田姫王生十市色女まらハ乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの
さき後女王ハ別後王の女なり額田女王の婿とらんゆまらハ乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの
江野洲那の後王は後王とていふもよきこれハいさよにのいさよの
のつは後王ハ別後王の女なり額田女王の婿とらんゆまらハ乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの
後女王といひて乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの
天皇ハ天武天皇也乃の語といふもよきこれハいさよにのいさよの

風乎太爾戀流波之之風小谷将来登時待者何香将嘆

かぜはたふらむこいなるなみの風小谷将来登時待者何香将嘆
かぜはたふらむこいなるなみの風小谷将来登時待者何香将嘆
かぜはたふらむこいなるなみの風小谷将来登時待者何香将嘆
かぜはたふらむこいなるなみの風小谷将来登時待者何香将嘆
かぜはたふらむこいなるなみの風小谷将来登時待者何香将嘆

女王の天皇へなれるまことさうてかくよめさうと久次と君結ぶのふた
此よりかふまへハムとまへ裁く事

吹黄刀自歌二首 改か

真野之浦乃與騰乃繼橋情由毛思哉妹之伊目爾之所見
まぬのうらのよとのつぎはらふゆもあかやいもがいにあみみゆる
まの浦橋情の由の思はるる橋のつらき情橋のつら
の如く中央の浦のあきまの思はるる思はるる思はるる思はるる
とやがう思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる
あかやのやと思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる
あれはいぬといふこと思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる
刀自ノ男よと思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる
輪刀自ノ我ハまへ思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる思はるる

河上乃伊都藻之花乃何時何時来益我背子時自異目八
方

かかののいつものまののいつのいつのまのまのやわがせにまののいつのいつのまの

いつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまの
のいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまの
のいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまの
のいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまののいつのいつのまの

田部忌寸標子任太宰時歌四首 傳しれど

衣手爾取等騰已保里哭兒爾毛益有吾乎置而如何將為
ころわがよとあまのこほめたうとまのまのいれをたまらういれせん
舎人千年

女のをユ児のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
名を標子の標子時けよまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

置而行者妹將戀可聞敷細乃黑髮布而長此夜半
なまそゆのびいひんのもまきくくのころそよまきなまきよめを

田部忌寸櫛子

え唐本みちに色様子のまきそはたのまきあはるが妹は櫛子のまきを
くらつこまきそは妹が櫛子のまきを

吾妹兒矣相令知人乎許曾戀之益者恨三念

わぎもこまあいきしめびとまきそまきのまきれがうしめみま

そめ櫛子一人とまきそは妹は櫛子のまきを

朝日影爾保蔽流山雨照月乃不飲君乎山越爾置手

あさひの影あはるやまおてまきのまきまきまきまきまきまきまき

まきのまきまきのまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

櫛子のまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

万解四上

柿本朝臣人麻呂歌四首

三熊野之浦乃濱木綿百重成心者雖念直不相鴨

みくまののうらのまきあはるまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

古爾有無人毛如吾歎妹爾戀乍宿不勝家年

いふふあまげんひもわがまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

今耳之行事庭不有古人曾益而哭左倍鳴四

いまのみのわざふはあふむけいしうのいよごまをりてたもみんたかみ
神心くろくまき恋のいろくんとまろくむくむくしんといして自らまぐさむく

百重二物来及毳常念鴨公之使乃雖見不飽有哉

ひくもきおふもとねりくもまみぶつひのみれどあひのこらん
及ハするこまろく使のいこひこよくと字サ人にもまれどく使と
あうぢおひしりうま室まハ二のらまきりまやうもま句とくこの句と書

碁檀越往伊勢国時留妻作歌一首 碁ハ氏檀越ハ人々へ

神風之伊勢乃濱茨折伏客宿也將為荒濱邊爾

かんせいのいせのはまをまをりやせういびねやうんわまきはまよ
三神檀越ハ人々へ碁古本及目録ハ碁工作ハ直下神

神風の檀越和名抄抜 和名 字本 これハ序ハ生くる疾ハ虚といふ是のわら

柿本朝臣人麻呂歌三首

未通女等之袖振山乃水垣之久時從憶寸五舌者

未とめらのそでふるやまのみつらふのひさきとまゆおひしよこのハ

そとめらが袖何大和石よの布留山は神さしついでららみづ

あきの枕何くくろくもよとこれハまひくわついでらのこま十一

同寄と載て入一き時由とかきり

夏野去小牡鹿之角乃東間毛妹之心乎忘而念哉

なつぬゆくをのつめのつらゆもいむがくろくををさしりてかくや

麻ハ夏野のくめは角あておひらもまがしまむ程くれがまのこまいハ

存とせりてハ志とておひら思れんやうと

珠衣乃狭藍左謂沉家妹雨物不語来而思金津裳

今更何乎可將念打麻情者君爾縁爾之物乎

いまさらんたかむとこのあはれんころらつじきころらむふよらとにものを

本千四石ののともあが下のゆきよとまはあつりんころらふあや

吾背子波物莫念事之有者大爾毛水爾毛吾莫七國

わがせここのわがむいそころあふひよとづもわれたけちころ

オ一吾大まむちわりもあつみのつきてしんくる吾莫勿久ホころら

あふひよとづもわれたけちころ

み入あふのわりのすあふとそあふころらむあふれころら

菟原もよのちみ水入大も入んとまむひと垂にるあとのすは換

後大よ入あふひ日本武そのの北結路の水入しそのあふとあれとれ

しころらむ

駿河嫁女歌一首

古くよ采女と嫁とま

敷細乃枕後久久流涙二曾浮宿乎思家類戀乃整爾

あふとへのまころゆころらむあふとまねをころらむのま

物よとくころらむあふとまねをころらむのま

よつよみしころらむ

三方沙彌歌一首

衣手乃別今夜後妹毛吾母甚戀名相因乎奈美

ころらむのわらふことよひゆいりこれいころらむあふとま

孝の及親のけよあふとまあふとて再逢ぶころらむ

丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌 丹比

紀多治比氏あふとま笠麻呂の傳ちこれ

臣女乃匣爾乘有 鏡成 見津乃瀨邊爾挾丹頰相

たごひのくげよのれふかふわらとみつのはまふとづら

紐解不離 吾妹兒爾戀尔居者 明晚乃 且霧隱
鳴多頭乃 哭耳之所哭 吾戀流千重乃 一隔母名草漏
情毛有哉跡家當 吾立見者 青琪乃 葛
木山雨多奈引流 白雲隱 天佐我留 夷乃國邊爾
直向 淡路乎過 粟島乎 背爾見管 朝名寸
二水手之音喚 暮名寸二 梶之聲為尔浪上乎 五十行
にわたることをよひいづるまきまかぢのこゝろにたゞのへをいゆま

左具久美 磐間乎 射往廻 稻日都麻 浦箕乎過而
鳥自物 奥津左比去者 家乃島 荒磯之宇倍爾 打廉
四時二生有 莫告我 奈騰可聞 妹爾不告来 二計謀
臣女まゝしつゝ何れぞとほのほろいひに言ハ姫の言の語れり
やめしうらん又臣女みやひし何べし言まハ臣ハサの語れり
たれが者思つてけりしと但細も縁居しとあけられぬの
まじりしわらわしとてくれしとまじりしとあけられぬの
まじりしわらわしとてくれしとまじりしとあけられぬの

幸伊勢國時當麻呂大夫妻作歌一首

吾背子者何處將行已津物隱之山乎今日歟超良武
わのせこいづくゆくんがきつものたづねれやまをたよりこゆるん

叶等事一まゝこてあまをく載る

草嬢歌一首

草の下香と為せてあぢりつハとそこのいらつたれ川へ

秋田之穗田乃刈婆加香縁相者彼所毛加人之吾乎事將
成成ゆへに秋田より而東來左日也 穂田乃而東來

あきのこのほづのかりばながらあまそそこのむのぢとこなせん

穂田ハ刈りまの田也刈婆加ハ刈計の器もて橋の刈程もされるとり
ちるべし者よりあまの考ハ後縁がて刈程もされハ橋みのり
ちひまきよとあまを思ふ女の今も思へるなめん末ハ志のより金あま
びんより人の思ふこゝろの思ふ人と思はれし事十代の田也

鹿ヲ庶
二誤

志貴皇子御歌一首

大原之此市柴乃何時鹿跡吾念妹爾今夜相有香裳
おぢはらのこのいちばのいつともわがわいもよあやしめあへふこも

大原ハ大和也柴ニハ香とをなす鹿跡ハ大原の志貴皇子と云ふ事あり
とる大原といちばハ標柴といつては又序の志貴十一道のべの立柴

志貴皇子御歌一首
大原之此市柴乃何時鹿跡吾念妹爾今夜相有香裳
おぢはらのこのいちばのいつともわがわいもよあやしめあへふこも

原のいつしよしよめるし曰

阿倍女郎歌一首

吾背子之盖世流衣之針目不落入爾家良之我情副

わのせこのけせさこふしのをちめおちどいふふ々々々々わがこころよく

古より那賀郡勢流 ^{勢とク} 藤原法 花子のききふとくびけせさこふしのをちめおちどいふふふふふふふふふふ蓋ハ

香をとれど良之の下もく太之字の落ふふふ計りたれどいししめあやめこの

入よく〜ハおし入るとり

中臣朝臣東人贈阿倍女郎歌一首

後紀和洞四年後五位下としゆ

獨宿而絶西紐緒思見跡世武為便不知哭耳之曾泣

ひとりやねてたるふゆいもとゆーくせんもへちろふねのみぞぞなく

久ーきひさきもとりふゆーくハゆーくふとらことき十二計ハあれぬは

一さそれうらんやと我とわやと後る偲の跡といふふいとい

阿倍女郎答歌一首

吾以在三相二搓流絲用而附手益物今曾悔寸

わがわろふみつあひふよほいむちらつづけてまもものほろろとやま

孝徳紀三絞之綱と云出雲風土記三身之綱打挂互の身ハ交くわにみつあひの

つちと河へしとつ紐よれるまろくつよく絶ぐさき多とり様ハ廣養云以手搓糸為淺

大納言兼大將軍大伴卿歌一首

安麻呂つと所行てかろふべ

神樹爾毛手者觸云乎打細丹人妻跡云者不觸物可聞

かのきいふてはあさむをうつそふはむづまといふふれぬものとし

うつらんカハ河ふんハ堪のそこをいひふせううわとよこよいんか下さら

まほとてわの流がいはし核ハ能ハ花のちよまきつとまといふふは

室とらと神樹わさきし河べ〜さききとてはらふらまもこのまよまきつと

けあよけとせといへ

石川郎女歌一首 即佐保大伴大家也 女麻呂の妻也

春日野之山邊道乎與曾理無通之君我不所見許呂香裳
からあめのやまべのみちをよそくわたりかまひきみづみえぬころん

よそくわたりはよそへきこしよりしききこころん 昔十四和尔余多利ハ昔ハ依
そのまはげ初とゆえ唐を興とれむゆふおそくわたりハおれ増ふるよそくわたり
こころんきこゆれど推ひさし

大伴女郎歌一首 元 今城王之母也今城王後賜大原真人氏也 孫人

その妻とて室をまきく死也

雨障常為公者久堅乃昨夜雨雨將懲鴨

あまふりつねききみいひをかこのきみのあめふごりふけんこのも
あまふりつねききみいひをかこのきみのあめふごりふけんこのも
あまふりつねききみいひをかこのきみのあめふごりふけんこのも
あまふりつねききみいひをかこのきみのあめふごりふけんこのも

いつか公の田かき歌

後人追和歌一首 和と同とせり一草ふりくぬむ

久堅乃雨毛落糠雨乍見於君副而此日今晚

いさかのあめふるあまづみきみよこころんあひさきん
いさかのあめふるあまづみきみよこころんあひさきん
いさかのあめふるあまづみきみよこころんあひさきん

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌一首 續紀養

光三年七月常陸国守正五位上藤原朝臣宇合管安房上総下総三国
紀馬養ともちく同人之馬養ハうまのいと判へられバ宇合もあつちか
宇合と用ふるハよそくわたりハ贈大政大臣不比等第三子也

庭立麻手刈干布慕東女乎忘賜名

ふんまのちあををかりほり志きこのあつちかあまづみきみよこころん
ふんまのちあををかりほり志きこのあつちかあまづみきみよこころん
ふんまのちあををかりほり志きこのあつちかあまづみきみよこころん

手紙

麻呂ふぶしとてふるまふこさしをよさらぬ麻呂のしるあふらぬれをよむか
て麻と對しつゝ別れる麻呂とを教をよみて干もとててまき一のふとつし
よふよき一のふまゝとてよまもあなふくつゝつし

京職大夫藤原大夫賜大伴郎女歌三首 目録原下麻呂の歌

いふ授しつ終紀養老五年六月後四位上藤原朝臣麻呂為左右京大
夫とてゆ、贈しつとてまきとて賜しつをよまもまきとて通しつ

嬌婦等之珠蓮有玉櫛乃神家武毛妹爾阿波受有者

をよめらつてのまきとてけつらたまごのあまきびとていふあつたれば
神家武古河つとてけつらたまごのあまきびとていふあつたれば
まされとて神さひはまてとてまきとていふあつたれば
まのほめつとて、神さひとていふあつたれば
源氏おほのまきとていふあつたれば

好渡人者年母有云字何時間曾毛吾戀爾来

よくわたりとていふあつたれば
まのほめつとていふあつたれば
まのほめつとていふあつたれば

爰被奈胡也我下丹雖卧與妹不宿者肌之寒霜
むいふとていふあつたれば
古き紀八子新神のまきとていふあつたれば
なる今の和やのまきとていふあつたれば
よめとていふあつたれば

大伴郎女和歌四首 大伴の下坂上のまきとていふあつたれば

雨者
ノ誤

狭穗河乃小石踐渡夜干玉之黒馬之来夜者年爾母有穰

さかたけのはのさされちみわらるるぬがさまのくさやいふおのわらぬ

和名抄細石説文云礫佐北以之ぬがさまのほねあつたの河はくさい

あせめしきもよこびなるもくはくしきまれうしきまらるる黒のぞ

くさのきるとれるる鳥梅も梅のさとのわらぬがぬがさの下の夜とい

へかたれまといふ

千鳥鳴佐保乃河瀬之小浪止時毛無吾戀雨

ちどりあひやくさののせのまじれちやむじきとたりわらうさくは

かき席こふりくさくさまを延りえ房を雨を者もはるるさくさく

将来云毛不来時有乎不来云乎将来常者不待不来云物

乎則入春半也亦云河瀬川會はるる鳥也

らんといふあひやくはるるさくさくさくさくさくさくさくさく

族ヲ誤
誤

まんとし人よまぬもあまらまてあまらまといへばあんとあひ
ていましあまらまといふものさくさくさくさくさくさくさく
千鳥鳴佐保乃河門乃瀬宇廣彌打橋渡須奈我来跡念者
ちどりあひやくさののせのまじれちやむじきとたりわらうさくは
ちどりあひやくさののせのまじれちやむじきとたりわらうさくは

右郎女者佐保大納言卿之女也初嫁一品穂積皇子被

寵無傳而皇子薨之後時藤原麻呂大夫婿之郎女焉郎

女家於坂上里仍族氏号曰坂上郎女也 佐保大納言の女

麻呂之郎女の家持のをむすく又姑也

又大伴坂上郎女歌一首

佐保河乃涯之官能小歷木莫刈鳥在尔毛張之来者立隱

金

鳥ハ誤
ノ誤

さかかしのまきのついのちの志えだののりき。あまつしたはるまきるはつ。
たぢかふるがね

旋頭身イつイのイまイまイとイのイ古イのイ祀イ身イやイまイのイこのイたイらイちイふイこイるイ
イのイ伊イ知イ能イ都イ加イ佐イとイるイ、イ曆イ本イハイくイぬイまイきイとイ紫イ糸イ列イてイ煖イけイびイのイくイ
イちイりイ、イ鳥イハイ寫イのイ照イ、イ在イ事イヲイとイりイやイらイすイらイうイひイぎイきイたイらイしイ、イあイのイつイのイひイちイをイてイ、イ張イハイ倍イまイうイくイ春イ入イハイゆイ禰イ、イたイとイたイらイしイ五イ限イきイうイてイ思イ違イんイとイ
イりイてイかイのイ既イよイいイり

天皇賜海上女王御歌一首 倭紀養老七年正月後四位下と、ゆ

赤駒之越馬柵乃緘結師妹情者疑毛念思

あのみよのこゆるうまさの志のゆひりりさるらんいづのひりたし
馬柵とうまさとつりつれと、宮まきと、考十、宇麻勢胡之、考十二、柵

万解四上 一八

様越えさるらんいづのひりたし

右今案此歌擬古之作也但以徃當便賜斯歌歟

源道別云擬ハ疑の倭使ハ時の倭主也且當時とらふハ格例ハはるまきるはつと

疑古之作也但以當時便イきイ ともイハイたイらイすイらイうイひイぎイきイたイらイしイ、イあイのイつイのイひイちイをイてイ、イ張イハイ倍イまイうイくイ春イ入イハイゆイ禰イ、イたイとイたイらイしイ五イ限イきイうイてイ思イ違イんイとイ

海上女王奉和歌一首 志貴皇子之女也

梓弓丸引夜音之遠音爾毛君之御幸乎聞之好毛
あづまゆみつまひくよとのほのあはもきみのみゆきをきくはりゆよと

幸ハ車イのイ字イのイ程イたイらイしイんイみイとイつイりイ、イ幸イハイ倍イまイうイくイ春イ入イハイゆイ禰イ、イたイとイたイらイしイ五イ限イきイうイてイ思イ違イんイとイ

隨身が夜の陣はとくしやと流しつゝよのくわの二つがくつむ
のれと男まろくまねつゝよまながくつむのわがは言ときけむ
よろくまろく

大伴宿太麻呂宿禰歌二首 佐保大納言第三之子也

後紀養老三二年備後守正五位下管安藝周防二国とらぬ此國とら女
とるせし時の事

打日指宮雨行兒乎真悲見留者苦聽去者為便無

うちひさるやふゆくことまがひとむむいづるやれまづた
ちのさけは枕詞のつらうの集申かうまらなりいづまひと
をさるそつはしむゆくとゆめやうたれおをりて聴去とち
難波方塩下之名凝飽左右二人之見兒乎吾四之毛
なまはのまろこのたもあくるまふいとのみこしむしむし

妹毛ノ下
事車ト
有ハ折文

たむかは波波くそまきのるるまをたつやく人へのあまらる
をき娘をまらんそまのこしなりとま七たのほれおけのた
くまそいその浦まはれてあんとよめ

安貴王詩一首 并短歌

遠孀 此間不在者 玉梓之 道乎多遠見 思空
とほつまのこふあぬたまばこのまをたふみゆつら
安 莫國 嘆 虛 不安 物乎 水空往 雲雨毛
やまろくたふたけそらやまのめものをもそらゆくま
欲成 高飛 鳥爾毛欲成 明日去而於妹言問 為吾
かむたのこまらあひのあまゆきといふこまひわつめ
妹毛事無為妹 吾毛 事無久 今裳見如副而毛欲得
いこまろくいもろめわれこたけいもみこたひてこ

遠づまゝに友はよゝゝハ上采女ハ上ハ因幡の歌多し其の
前前の采女もいづゝもさしあつゝも退られりと思ふや
たゞみみのたゞ後修思ふも教へりていづゝのやうな
むしきまじりていづゝも集りていづゝの信何れ
らもたゞいづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝも
事なる下五三一句落るゝの但叶神も集りていづゝも
よゝかく者いづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝも
いづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝも
たゞいづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝもいづゝも

反歌

敷細乃手枕不纏間置而年曾經来不相念者
まきいづゝのまきいづゝのまきいづゝのまきいづゝの

まきいづゝの極相の下日のまきいづゝのまきいづゝの
いづゝのまきいづゝのまきいづゝのまきいづゝの
いづゝのまきいづゝのまきいづゝのまきいづゝの

右安貴王娶因幡ハ上采女係念極甚愛情尤盛於時勅
断不敬之罪退却本郷焉于是王意悼怛聊作此歌也

門部王戀歌一首

飲宇能海之塩干乃滴之片念爾思哉將去道之永手呼
れうのうみのまきいづゝのかまきいづゝのまきいづゝの
和名抄出雲国意宇那あゝその海なるん本ハ片思ひいづゝの
永手のてハちよ通ひやぢう道之これの往來を絡む反也やの何
まきいづゝのまきいづゝのまきいづゝのまきいづゝの

右門部王仕出雲守時娶部内娘子也未有幾時既絶往

娘子笠朝臣金村作歌一首并短歌

後紀十年辛卯紀伊

幸のゆゑ

天皇之 行幸乃隨意 物部乃 八十伴雄與出去之

愛夫者 天翔哉 輕路從 玉田次 畝火宇

見管麻裳吉木道爾入立 真土山 越良武公者 黄

葉乃散飛見乍 親 吾者 不念 草枕 客

手便宜常思乍 公 将有跡 安獲獲二破且者雖知

之加須我仁默然但不在者吾背子之往乃萬萬將追跡者

手遍雖念 手嬾女吾身之有者 道守之 將問答

宇言將遣 為便乎不知跡 立而爪衝

をいひやらんむを

八十伴の男とたをりて天冠や枕詞時路のま一と改む

之加須我仁默然但不在者吾背子之往乃萬萬將追跡者

志らむるのむすえあねむの世にゆきのまをかくれをひは

手遍雖念 手嬾女吾身之有者 道守之 將問答

ちいひれむとたやめのわのみみあれはみちわのどりんこ

宇言將遣 為便乎不知跡 立而爪衝

をいひやらんむを

八十伴の男とたをりて天冠や枕詞時路のま一と改む

時のをよむるのままけはむむまき敵火のゆよゆまのまやんむの

言はれむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

は天和の御所のまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

しりまつらのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

しりまつらのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

しりまつらのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

この曲は...
あつねが...
...
...
...

反歌

後居而戀不有者木國乃妹背乃山雨有益物乎

おくらめてこひつあらうらみきのくふのいとせのち...

吾背子之跡履求追去者木乃関守伊将留鴨

わがせこいあももみかもあおひゆのまきのせまわり...

本の関守伊と伊とよの向者へ...
けしうし君伊とけしうの伊と...

二年し丑春三月幸三香原離宮之時得娘子作歌一首

并短歌 笠朝臣金村 寶武天皇二年五月壬申朔日夏禊原

歌字へ幸あり、みらの原ハ山城国相樂郡之、笠朝臣金村の五字時の字
天雲之下ありへ、ちみ保も遠く、は娘子ハ紀伊の遊女なりん

三香之原客之屋取爾珠粹乃 道能去相爾 天雲之

みらのけらたひのやとてふたまほろみ、みらのゆきあひな、あまふれ

外耳見管 言将問縁乃無者 情耳 咽乍有雨

よそのみとつこもつし、のなをいばるのみにむせつあるふ

天地 神祇辞因而 敷細乃 衣手易而 自妻跡

あめつちのかみこもよせそまきこへのころわでかへておのつまこ

憑有今夜 秋夜之 百夜乃長 有 與宿鴨

たのめるこよひあまのよのむよのわさくあやせぬのも

たびのやぶら幸の耐後都の人の後菴とりよ道の終あひハ散言ハ終
踏まゝ終合しといふあまそハよそむといふん料とよそのみよつハ
よそあのみとりつを男と云ふこよせうハ室者之事依と回さるる
のよせ終してとんといふ、志さるこのハ枕詞、衣もくしてハ神さうて
とりつと物、自妻ちのつま川べ、若千に於能豆麻乎いとのさくに
とあり、む夜のもくハる夜のかくといつと男と云ふ、與ハもの深ありこ
せぬうもハあれうと終ぐと終と

反歌

天雲之外後見吾妹兒爾心毛身副縁西鬼尾

あまそこのよそむえいよわきしこよこつるもみよふよあさあかのそ

心とんあさうといふんが、そのいふさる鬼の字をのけるハ史記齊
悼惠王世家ハ舍人恠之以為物而伺之
云物恠物 又和名抄鬼 安之
岐毛

乃たあ

今夜之早開者為便乎無三秋百夜予願鶴鴨

このよらのそやあけぬれはもをなまあきありよをねがひつるかも

五年戊辰太宰少貳石川足人朝臣遷任餞于筑前國蘆

城驛家歌三首 續紀和銅四年四月丙午朔壬午授正六位下石川朝臣

足人後五位下とまゝ、そやあきあり

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右

あめつものかみもつとけよとさるくらゐひゆくまゐのいへいゝまで

大船之念憑師君之去者吾者將意名直相左右二

おほぶねのねひいのみよ、まゐのいへいゝはこひんなたがまゐに

大ぶねの枕詞、こひんなのいへいゝといひおほぶね

山跡道之島乃浦廻爾縁浪間無牟吾意卷者

崇神紀おぢかのぬの介跡之跡松ともく酒とつゝるとわひしり、孝十
 六、味酒と水と磯ちり書侍しよりし、古の記に其神祖息長帯日幸命磯待酒以
 獻ともく、ちり人を待み侍る磯とて待酒といへり、やその跡に筑前夜
 須取之、神功紀元年層増岐野に到りて、然誓をぬけりてして、我心安
 しとのたまひしよりておと安しりりてえそりり、長なる磯くしりお徳とてお
 されが福やのよしとて

賀茂女王贈大伴宿禰三依歌一首 故左大臣長屋王之女也

孝八位上長屋王之女母曰阿倍朝臣也

筑紫船未毛不来者、豫荒振公予見之悲左
 つらねいましこれおほかめあらはさきみをえるがかたうさ
 こねをいこぬふしうんひひなまきいそりし情をいれと恒も荒備なり
 そしよあそひくわらふるさし時くらさもをなまひ

土師宿禰水通後筑紫上京海路作歌二首 付わかれ

大船乎榜乃進雨磐雨觸覆者覆妹雨因而者
 おほぶねをこきのしりきみいふふちかへくくれいりようれは
 さしきりしりしきさみしりしり月けうふれえあそひの妹よあらんとて
 いそひやといりてばくさげし

于磐破神之社雨我掛師幣者将賜妹雨不相國

ちるやぶるかみのやしろよわがかきぬきいただんいりあけはちるふ
 上のまこと今せえらるる海路の雨れけやうなうむて日と御ひまら
 よらるるかうるいしただんハ幣をぬりぬれしり

太宰大監大伴宿禰百代意歌四首

事毛無生来之物乎老奈美雨如此意于毛吾者遇流香聞
 こし毛なくあまのものをあたみかるといしむわれあうとも

おいちるみハ年改の次ニ仰ぐやうく老翁と云宮を云生ハ在の儀也
古河ハあるとあれハ字の信りたる物と云何と云てをいさう
とていつとん又生まるるばあれとていれとていれとていれ
くれどそいさうび改の即女のみよたをねとすといしハ改時即女
ち字よりつげく百代のまゝなるべしとていれハ改の即女のみハ
さうとていれ

孤悲死牟後者何為牟生日之為社妹乎欲見為禮

こい志ぢんのちハちぢせんいけるひのふあそいもをみまけりけれ

え唐介後と時記

不念乎思常云者大野有三笠杜之神思知三

おもれぬをけりていとおほぬたるとすのさのりりのかみ一とていれ

和名抄筑前大野郡ヲ神功紀熊鷹と撃人ト一ハゆりりていれ

大笠風子隨少敷ヲ和と御筆ハ一ハゆりりていれ

おもれぬとていれ

無暇人之眉根乎徒令搔尔不相妹可聞

いしまあひのくひのまゆねをいづらふかえつてもあをぬいもの

人まゝこれハ眉のかゆきとて後ハ一ハゆりりていれ

てうとていれ

大伴坂上郎女歌二首

黒髪二白髪交至者如是有意庭未相雨

くろかみふしろかみのみまじりおゆるまてかふるらひまはまてあはまに

あ女いまは老るる程ハ一ハゆりりていれ

ゆきよとていれ

ゆきの之路髪麻匠糸とていれ

山管乃實不成事乎吾爾所依言禮師君者與孰可宿良年
 やまのけのみわのうねをわれよせいにけきみふれはのうん
 山管ハ和名抄夏川冬夜麻頃分うたうとのん屋中夏の子うらやうよ
 知りこい只まゝのんるのみまうたうねしにのまごいからん所
 依よせよとむいしをさるるより言をまゝ人よむけは海ハ
 誰よきとんとらふ

賀茂女王歌一首

大伴乃見津跡者不云赤根指照有月夜雨直相在登聞
 おりみのみつとらふあねをてらつくとあれたよあへまゝ
 おはしらの柱のさそふは難波の津津かゝるやといし河をうて
 見つるしつよいなりしを去ぬるし物相

大宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

万叶四上 三十

草枕羈行君宇愛見副而曾来四鹿乃濱邊予
 くさまくらたひゆきみまをりしをさしてさう志ののはまご

右一首大監大伴宿禰百代

周防在磐國山字將超日者手向好為與荒其道

和名物周防坂柯影石園

右一首少典山口忌寸若麻呂

以弄天平二年庚午夏六月帥大伴卿忽生瘡脚疾苦枕
 席因此馳驛上奏望請庶弟稻公小姪胡麻呂欲語遺言者
 勅右兵庫助大伴宿禰稻公治部少丞大伴宿禰胡麻呂
 兩人給驛發遣令看卿病而逐數旬幸得平復于時稻公

丞ヲ丞ニ
 者元省
 二作

右一首防人佑大伴四綱

佑とて大伴と傳れり

太宰帥大伴卿上京之後沙彌蒲誓賜卿歌二首 賜元唐

本贈

真十鏡見不飽君雨所贈哉且夕雨左備下將居

まろがみよあのをさみよあつれてやあしゆべよまびつをらん

贈の字ハ侍りて後予へ又場御のつらき後れりよまびつ左備

まろがみよあのをさみよあつれてやあしゆべよまびつをらん

野干王之黒髪變白髮手裳痛寤庭相時有来

ゆでまのくろのみしろが髪ていふまのあつれてやあしゆべよまびつをらん

山奴 あまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

男女の恋ハ各付りてあつれてやあしゆべよまびつをらん

大納言大伴卿和歌二首

此間在而筑紫也何處白雲乃棚引山之方西有良思

こゝにあまをいつくやいつく志らむ此のなびくやまのかうにありて

あまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

草香江之入江二求食蘆鶴乃痛多豆多頭思友無二指天

くさのこののいよまよあまの河いづのあまをいつくしむたあしゆべよまびつをらん

あまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

あまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

あまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

なまのつねはと郎女のくろ髪よ白髪まじりてあつれてやあしゆべよまびつをらん

太宰帥大伴卿上京之後筑後守葛井連大成悲歎作歌

一首 後紀神龜五年五月乙未上葛井連大成授外後五位下

まろがみよあのをさみよあつれてやあしゆべよまびつをらん

かゝるねむい俗のかりぬやういふ

足引乃山雨生有菅根乃 勲見卷欲君可聞

あひまのやまのいはいふまののねのねむらみまけりたふあひ

かゝねむらうといふ人等の

大伴坂上家之大娘報贈大伴宿禰家持歌四首

生而有者見卷毛不知何如毛将死與妹常夢所見鶴

いまゝあらばみましくもさうふたふいふも 志かの人よいかといふまゝ

舞仲よこしきまをさうくればかみよなごうくば又あまじし志られ

ぬとたごうまうまよ志の入ましがあまうあうよまこいひなん

えつらんよみ

丈夫毛如此意家流乎幼婦之意情爾比有目八方

まぢらをしかういなるをたもめのもさうらよんへらめや

女の二つをさうらうりさうたふらうやせはたふらるまんや
とらうらうまうまうらうのさうらうらうらうらうらうらう
さうらうらう

月草之徒安久念可母我念人之事毛告不来

しつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

しつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

しつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

しつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

しつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

春日山朝立雲之不居日無見卷之欲寸君毛有鴨

かうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

かうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

大伴坂上郎女歌一首

出而將去時之波將有乎故妻意為乍立而可去哉

いでいかにんごまきいあをんをこももらひつゝまひつゝもそいぬや

揺らけりあもまや出てりけりあをんいこれとゆふらひつゝ

とまきりりへきるよああぬい

大伴宿禰稻公贈田村大嬢歌一首 元 大伴宿奈麻呂卿之女也

倭紀天智十三年十二月後五位下大伴宿禰稻君為因幡守とらん

よし仲大伴卿病時驛使と贈哥のたゞ庶弟稻公とらん

不相見者不慮有益乎妹乎見而本名如此耳意者奈何將

為

あひみまこしきうまをいもとみくわあかこのみこいびいふせん

まはな申さしをいまをくいとらん

右一首姉坂上郎女作 首六云の信ちん

笈女郎贈大伴宿禰家持歌廿四首

吾形見見管之努波世荒珠年之緒長吾毛将思

わががみいつとぬぢせあらうまのこ世をなごけられおはむ

んつゝまひあつゝ年の信いむの信氣の信の信いひくゝ年とま

信くものねるをととく信のまどかつゝなん

白鳥能飛羽山松之待乍曾吾意度此月比乎

しらうまののばほやままつのもちつゝそわづこいひつゝこのまひらを

白とりの松羽とてい大和のゆよまれおしるのをねよあつゝおはら

つゝいんちの

衣手穿打廻乃里爾有吾身不知曾人者待跡不来家留

ころがせうらうのまひあはれとまらむがしひいもくといひん

なごしと枕詞のちのまは十一種ものす廻前のいふがらうとて
せむ大木の神さしののちのまは十一種ものす廻前のいふがらうとて
ほろろとてわらわらとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて
進まよとて乃のまは十一種ものす廻前のいふがらうとて
まのちとて前も同じくすはちのほろろとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて
らとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

荒玉年之經去者今師波登勤與吾背子吾名告為莫

あらまのとのへいげばまはとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

今いとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

昔とていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

吾念身人爾令知哉玉匣開阿氣津跡夢西所見

わのおん身をいふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

鶴ヲ今
鴨ニ誤

ちとせやのちとせはふやとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて
そとてちとせはふやとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて
聞夜雨鳴奈流鶴之外耳聞尔可将有相跡羽奈之雨
くらきよにわらわらとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて
おののみやとていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

君雨意痛毛為便無見樞山之小松下雨立嘆鶴

きよよこひいふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

鶴とていふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

吾屋戸之暮陰草乃白露之消蟹本名所念鴨

わらわらのいふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

夕涼まのいふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

まにむかひいふは十一種ものす廻前のいふがらうとて

吾命之將全幸限忘目八彌日異者念益十方

わいのちのまゝにうしなはせりやもれぬやいやひよけふのぢぢまもとも

將全幸ハまさけんとよみうまきさくあんのこととよんぐれんえ

唐平幸と年ハ能ふよふいふまゝにうんとよまんを後つこ

八百日往濱之沙毛吾意二豈不益歟與島守

やほのゆくはまのまゝごとわのこいよあふまゝうらごのねいしとら

やのりハまぐの日報とあゆみりこふまゝがざりやう遠く後こい

ここハあゆむハかきもしとるごいへる教ぬここはのさよれよあて候

得せよ同と役ま

宇都蟬之人目半繁見石走間近君雨意度可聞

うつせみのひとめとまぢみいもりのまぢのきこもみよこいわんこも

うつせみのいもりのハ抱抱

意爾毛曾人者死為水瀬河下後吾瘦月日異

こいふんぞいとハまぢもまぢなせがはとゆこれやとまぢよこいあ

まぢよこ人ハおつるかのあぢもんとと下ゆハなうしとゆ人ハれぞ

この意瘦も水ちせ川ハまぢ十一水せ川又水瀬川ともこ水の中

無の字もこのまぢ地もまぢも川のあのかのちとこまぢとこ

小水のせ川とりんさんバト後といん序とせ

朝霧之鬱相見之人故爾命可死意渡鴨

あさぎりのおおひあひみひとゆあまのちぬぐこいわんかも

朝霧のちおわいん料のこ人あまハ人かまふとこ

伊勢海之磯毛動雨因流浪恐人雨意渡鴨

いせのうみのいそ毛動るよよもたみかこまぢいもふこいわんか

かかこまぢいん序とまぢ人かまふとこ又ハまぢとこ

あはれとていふはほろひの心なり、いとまは、且本邦丹の信あり、あはれにけし
らん、いとていふは、たてまつるべし

皆人乎宿與殿金者打禮打君子之念者寐不勝鴨

みぢしよとていふは、おのれが、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

ねらの清はまのすけ、天武紀人定と見ゆ、まのすけ、人のいふて、あはれに

あはれに、いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

あはれに、いとまは、たてまつるべし

不相念人乎思者大寺之餓鬼之後爾額衝如

あはれに、いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

自八日

後情毛我者不念寸又更吾故郷爾將還来者

ちりあはれに、いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

女のあはれに、いとまは、たてまつるべし

近有者雖不見在予彌遠君之伊座者有不勝自

ちりあはれに、いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

いとまは、たてまつるべし、いとまは、たてまつるべし

ちりあはれに、いとまは、たてまつるべし

徘徊
今
誤

知師乎無三雖念田付乎白二幼婦常 言雲知久

手小童之哭耳泣管 徘徊 君之使乎 待八兼手六

なまらばのわのふちをいしむはほりてまのしひをまらばかおん

おつては根の昔の根の四の下手の手の指と宮のつらきこ

しつひのつらきこ年深くハ三^ま若き堤ハ年深きつらきこ

跡のつらきこハまのつらきこハまのつらきこハまのつらきこ

同語物ハまのつらきこハまのつらきこハまのつらきこ

集申様よりしてしむはまのつらきこハまのつらきこ

その名の極ハまのつらきこハまのつらきこハまのつらきこ

よまを、かよまのつらきこハまのつらきこハまのつらきこ

のつらきこハまのつらきこハまのつらきこハまのつらきこ

秋のひげをそへてやうんん秋のまはもたせよこまこくちよ、んんん人の
まこつんやんあ〜ん〜ん 抱抱、んんやりの弱女、んん女のまかたをんんんん
なまをいよ、んんもろ〜んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
とまこ如とろとろをり、あおれと始ね、んんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
待かぬてんんん

反歌

從元長謂管不念恃者如是念二相益物歟

はがえよたあ〜んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

不の下の念の念のほろ〜んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

そ、ちあよ〜んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

あはれもなきをよむもなきをよむもなきをよむもなきをよむ

西海道節度使判官佐伯宿禰東人妻贈夫君歌一首

後紀天平四年八月丁酉之授外位五位下之也

無間、憇爾可有牟草枕客有公之夢爾之所見

あはれもなきをよむもなきをよむもなきをよむもなきをよむ

夫のまづればあはれもなきをよむもなきをよむ

佐伯宿禰東人和歌一首

草枕客爾久成宿者汝乎社念莫意吾妹

くまふとくふひまひまひまひまひまひまひまひまひまひまひ

なほとくふひまひまひまひまひまひまひまひまひまひまひ

池邊王宴誦歌一首

後紀神龜四年正月無位池邊王授後五位下
大友皇子之孫葛野王之子後海真人三船之父也

二
鳥

松之葉爾月者由移去黃葉乃過哉君之不相夜多焉

まのふふきいゆつとめがふぢあめまきぬやまえがあふぬよわわ

うつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつ

ぬちのあまのこふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

まこといつり鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と鳥と

天皇思酒人女王御製歌一首

女皇者德積皇子之孫女也
聖武天皇之女王ハ光仁天皇の皇女後紀宝龜元年十一月己未朔甲子授

後四位下酒人内親王三品也

道相而咲之柄爾寒雪乃消者消香二意云吾妹

みらふあひをまがはれふゆきのけふはなぬふふふふふふふふ

ふぬふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

おふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

かけりて

高安王^{タカヤス}畏^カ鮎^ス贈^ル娘子^メ歌一首 高安王者後賜姓大原真人氏

後紀天保十一年四月甲子後四位上高安王と賜大原真人之姓といふ

奥幣往邊去伊麻夜為妹吾渙有藻卧束鮎

おきこほまへよまきいまやいづめわがこねるるまよ一つづれ

今やいづれよまきいまやいづめわがこねるるまよ一つづれの鮎といふまよは

物後よる即といふ鮎は妹がるやと渙といふまよといふのまよは

ハ伊麻夜といふやと川と動のゆきやといふまよは

八代女王^ヤ獻^ル 天皇^{ミコ}歌一首 後紀天平宝字二年十二月丙午毀

後四位下天代女王位祀以被幸先帝而政志といふ

君爾因言之繁乎古郷之明日香乃河爾潔身為爾去

一尾云龍田^リ超^ル三津^ミ之濱^ノ邊^ノ雨^ノ潔^ク身^ヲ四^ノ二^ノ由^リ久^ク

人のねらみいづれものまげきよよりてみそきよきよきよハ改出

娘子報贈佐伯宿禰赤麻呂歌一首 娘子詩とこれと歌ハ

衍字の又のり懸系といふが爲り

吾手本將卷跡念年丈夫者意水定白髮生二有

わがしんまかんとおしをまほしをばなまづいふまづいふおしを

まのんは枕をせんといふまほしをばなまづいふまづいふおしを

まのの句の以へ我らといふまほしをばなまづいふまづいふおしを

佐伯宿禰赤麻呂和^ワ詩一首

白髮生流事者不念意水者鹿糞藻闕二毛求而將行

しらけのわがしらこといふおしをばなまづいふまづいふおしを

とのちと交てよちるぬらよのうとまじりてあはれなるかたよよ酒
とまじりてあはれなるかたよよ酒

大伴四綱宴席歌一首

奈何鹿使之来流君乎社左右裳待難為禮

かろあまのついでにのまじりてあはれなるかたよよ酒
はあまのまじりてあはれなるかたよよ酒

佐伯宿禰赤麻呂歌一首

初花之可散物乎人事乃繁雨因而止息比者鴨

もつをしのころるべきものよとてあはれなるかたよよ酒
あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

湯原王贈娘子歌二首

志貴皇子之子也

宇波弊無物可聞人者然許遠家路乎令還念者

うはへなきものよとてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

あまのまじりてあはれなるかたよよ酒

目二破見而手二破不所取月内之楓如妹乎奈何青

めふハみくしてんはとれぬまきのうものかつらのごときいよとにせん

和名抄は兼名苑月中有河河上有桂高五百丈とてくうもつこくう

いとくもくみゆ和名抄楓 字加桂 女加とくもくをう用ふ

娘子報贈歌二首

幾許思異目鴨敷細之枕片去夢所見来之

いのだらむしむけひけめかもしまきくへまきくかつやまむいぬみえこ

妻五ゆふゆふとちとみいね伊加婆加利こりくあまんとよあれは幾許と

のくよゆふおのニそいまうけひのむらうゆあは改はまきてんい

巻五麻久良依良受提いぬやこえんとくを思へばこり片ハ不のま

ゆくちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

率今
率誤

家二四手雖見不飽乎草枕客毛妻與有之乏左

いへりてみれどあぬどくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

次は率これくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

よくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

湯原王亦贈歌二首

草枕客者孀者雖率有匣内之珠社所念

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

括弧もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

まうがーとつくと室をいしう

余衣形見雨奉布細之枕不離卷而左宿座

わがころもかみまはまふしとまきしんへのまきかかひんげはまふしとまきしんへのまきか

まふしハ連のまきとまふしとまきかかひんげハ歌とまきかかひんげとまきかかひんげとまきか

まふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハ

まふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハ

まふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハまふしハ

娘子復報贈歌一首

吾背子之形見之衣孀問雨余身者不離事不問友

わがせこがみかみみのかろもつまふしふわらふまふしふわらふまふしふわらふまふしふわらふ

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

湯原王六贈歌一首

直一夜隔之可良雨荒玉乃月歟經去跡心遮

たひとよへとととととととととととととととととととととととととととととととととととととと

卷十二うせみのまのこもつとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

娘子復報贈歌一首

吾背子我如是意禮許曾夜干玉能夢所見管寐不所宿家

わがせこがみかみみのかろもつまふしふわらふまふしふわらふまふしふわらふまふしふわらふ

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

まふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしとまふしと

ふれはこそそのバと男をくつわらそせられハねられどうえれといふ

湯原王六贈歌一首

波之家也思不遠里乎雲居爾也意管將居月毛不經國
はけやまのちのさよをくわぬやといつてさういづまをへたかく

そらやハおそくそらそら月ハ住ぬとくわぬのほほく痛め

娘子復報贈和歌一首

用原和のまかり

絶常云者和備漆責跡焼太刀乃隔付經事者幸也吾君
たゆといふわびいみせんとやきぶものへつのもこハうんくやわぎ

焼太刀の枕詞をつうハカハ緒を痛てみよそくあのわらまをさし下ふ
奈何好去哉吾妹トいあれハくもよけく何とまをひく幸ハハかる

ふされどまのこをせわしくせや宝もも成人ハ幸ハ幸の得ましくか

在者

湯原王歌一首

吾妹兒爾意而亂在久流部寸二懸而縁與余意始

わきこころふこひてみればくくるまかけよせんといわづこひる

在者之誤りなり和名抄云辨色生成反轉 久流 漢語鉞說同縁車

唐韻云縁訓久 絡系取也 是幸取の下 縁字

紀女郎怨恨歌三首

鹿人大夫之女名曰小鹿安貴王之妻也

世間之女郎思有者吾渡痛背乃河乎渡金目ハ
よのわらあをえたのあはらわのころあやめのかつとわらうかぬ

和のよのつねのわらうがこころあやめといハあれあやせといつ
あはれはるを身中さむくの痛足川とよあれハ皆ハ足のほまきあかり

又ハ廣背の信をくむらせり廣津川に奉てよありて空をハ吾ハ君のほよ
てきまのつらむらへいふ行考べ一ハのニそと合せるくま
指しふるまきよめるあふんぬ

今者吾羽和備曾四二結類氣乃緒爾念師君子綴左思者
いまあはひごにふるいきをよむひしきまをゆるさくおひへは
いさのとハ命をいふゆふとハゆふいと安らさくゆふをたらしさつる
いせ物置きたとこのうらを用ひたりたもと外てたもとかくていへん
いこはちをさかへんハくつへると一本たと久は他はたハ流すて一むら
をくむら

白妙乃袖可別日年近見心爾咽飲哭耳四所泣

しらべのそでわらへんきこひをちみこころよむせじねのみりたうのゆ
泣と流とく一むらよりて政つ飲え房が飯は他はのむむぬよむせじてこ

わらんこく室をちいづ

010190519142

万解四上终五十

